

(様式2)

*Salmonella* Thompson による牛サルモネラ症の発生  
とその対応

： 飯田家保 菅野 宏

スペース行（空欄）

1 令和7年9月に搾乳頭数約35頭の酪農家で同時に  
2 6頭が発熱し、そのうちの5頭が4日後に偽膜を混じ  
3 った下痢を発症。下痢便から *Salmonella* Thompson が分  
4 離され、牛サルモネラ症と診断。農場に立入し、全頭  
5 の直腸スワブ、環境材料及び飼料を検査し、牛16/  
6 67頭、環境材料2/14検体から同菌を分離。感受性  
7 薬剤による治療とともに、消石灰と逆性石鹼による畜  
8 舎消毒を実施。生菌剤は普段から使用していたが増量  
9 して給与。翌週に症状は改善。10月に全頭及び環境  
10 の再検査を実施したところ、牛4/69頭、環境4/  
11 18検体が陽性となり、牛の陽性率は低下したもの  
12 の、浸潤が継続していることを確認。診療獣医師を交  
13 えた検討会を開催し、対策を共有。12月に陽性牛を  
14 中心に再々検査を実施したところ、牛2/12頭、環境  
15 1/4検体が陽性。サルモネラ症は清浄化に時間がか  
16 かり、特に繋ぎ牛舎では周囲の牛に広がり易いことか  
17 ら、日頃の衛生管理と早期発見が重要と考察。